いくつもの時代(とき)を超えて……。

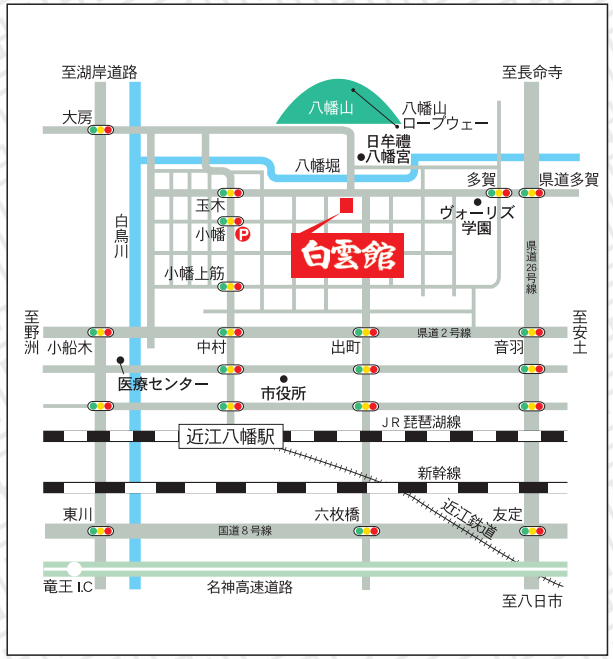
Japan Shiga
近江八幡

白雲館

この題字は、明治の三筆と称される滋賀県出身の巌谷一六(本名:修)氏の作です

Hakuunkan Building

画：岩井克統



■近江八幡駅からお越しの場合

- JR東海道線(琵琶湖線)「近江八幡駅」北口下車、近江鉄道バス(長命寺方面行)に乗り約6～8分、「八幡堀(大杉町)八幡山ロープウェー口」下車すぐ。
- 徒歩の場合は白雲館まで約2km(約30分)

■入　館　料／無料
■開 館 時 間／9:00～17:00
■休　館　日／年末年始(12/29～1/3)
■管　理　者／近江八幡観光物産協会

2Fスペースはどなたでも利用できます。
使用料は、閑散期や繁忙期に価格差はありますが
1日／2,800円～4,200円です。
ご利用に際しての詳細はお問い合わせ下さい。

白雲館
〒523-0864 滋賀県近江八幡市為心町元9番地1
TEL 0748-32-7003　https://www.omi8.com

発行 2022年

白雲館(旧八幡東学校)は明治10(1877)年に建設された学校建築物です。八幡商人の熱意と区民の協力により、西洋建築の様式と、日本の伝統技術をとり入れ建築されたものです。近江八幡市では、先人の残したこの歴史的文化遺産を後世に受け継ぐため、地域づくり推進事業の一つとして、この建築物の保存修理を行いました。
先人の学校づくり、まちづくりへの熱意に学び、人と人との出会いから新しい文化を育てる交流の場として、また、まちづくりの情報発信の場として活用するものです。

The Hakuunkan Building was constructed as a part of the Hachiman-Higashi School in1877.
With the local merchants enthusiasm and public support, the building was designed and featured a Western architectural style Produced by traditional Japanese techniques.
In our city, this architectural wonder has been restored as a preservation of the community,in order to pass on the historic cultural heritage of our predecessors to our future generations.
From this project, we have learued much about our pioneers' enthusiasm spent in shaping the school and town. And today we will hope to make the most of this site as a cultural exchange rendezvous and center of community information.

建物構造	木造2階建 寄棟造 塔屋付
敷地面積	801.15㎡
建築面積	305.85㎡
建物の高さ	12.60m
延床面積	1階 277.63㎡ 2階 214.85㎡ 合計 492.48㎡

白雲館沿革

明治	5年8月	学制が公布される
	9年5月	校舎建設の決議がされる
	10年4月	建築落成
	19年	東西両校合併により本校舎となる
	26年9月	新町三丁目に本校舎が新築され学校としての役目を終える
	28年9月	八幡町役場となる
	33年5月	蒲生郡役場に使用
大正	11年4月	建物の一部が有限責任八幡町信用組合(現滋賀中央信用金庫)に使用
	9月	蒲生郡役場新築転出
	12年4月	ふたたび八幡町役場となる
昭和	26年9月	八幡町役場、近江八幡電報電話局、農林省滋賀食糧事務所八幡出張所などに使用
	41年	民間に移る
平成	4年	近江八幡市に移管
	5年2月	修理工事着工
	6年3月	修理工事完成(明治期の姿を復元)
	10年9月	国登録有形文化財に登録される

国登録有形文化財

白雲館は先人の残したみちしるべ

完成当時の白雲館

近江八幡と白雲館

白雲館は、豊臣秀次（秀吉の甥）の居城があった八幡山の麓、旧城下町の中心に位置している。白雲館という名称は、藤原不比等の和歌から名付けられた説や鎌倉時代の臨済宗の僧・白雲彗暁（はくうんえぎょう）の徳を偲んだことによる説などがあるが定かなことは不明である。

一見すると洋風建築であることから、近江八幡を中心に活躍した建築家「ウィリアム・メレル・ヴォーリズ」の設計と想像する人も少なく無いが、彼が来日する約三十年も前、地元の大工によってに建てられた擬洋風建築である。

近江商人のまちの学校

白雲館は、明治十年（一八七七）に八幡東学校として建築された。当地域は、近江商人の発祥地であることなどから公教育はかねてより熱心で、建設に際しては、商人や地域住民の熱意と協力により当時六千円（米一俵が1円34銭）の費用をかけたとの記録が残る。当時の住民による子孫への教育に対する思いや進取の精神を垣間見ることが出来る。又、特筆すべきは、開設当初、約二百人の児童が在籍していたが、わずかながらに女児が男児より多い。男児は丁稚奉公で江戸や大坂に出ていた者も多く、地域内の男女バランスが均一ではなかったとはいえ、女性に対する教育の理解も進んでいたようだ。

八幡東学校当時から掲げられていた扁額

徳門とは、徳を修める門、即ち学校の事を意味しているものと考えられる。又は、丙子冬日（明治9年）八幡東学校の経始（起工式）にゆきてこれを書すと、筆者の子琴錢懌という人が署名している。

▲修復前の白雲館（昭和期後半）

▼現在の白雲館

復元、そして再生

学校として建築された白雲館ではあったが、生徒数の増加のため、その需要を満たすことが出来ず、わずか十五年ほどでその役割を終えた。その後は、役場、郡役所、信用金庫等を経て、昭和後半期からは老朽化のため空き家状態が続いた。しかし、近江八幡市が、平成四年（一九九二）から修復作業に取り掛かり、平成六年（一九九四）に八幡東学校開設当時の姿に復元された。

生まれ変わった白雲館は、1Fに近江八幡観光物産協会の事務所や観光案内所などがあり、2Fは、ギャラリースペースとなっており、四季を通じて、様々な展示や企画が実施されている。

建設以後、様々な用途に使用されてきた白雲館ではあるが、いつの時代も、その時代に応じた情報を発信し、そして必要とされてきた。今後も皆に愛される施設であることを願う。

階段踊り場はステンドグラスが見える白雲館の内観